

今回は「社会人の教科書」という本からです

幹事とは、特権を得ること

幹事。

この言葉に、あなたはどのようなイメージを持っていますか？

面倒くさいこと。段取り上手ではではないから自分にはできない。人望がないから私に無理。こんな否定的な印象を抱いている人もいるのでないでしょうか？

幹事は、決して難しいことではありません。特別な能力など、まったく必要ないです。要求されるとすれば、心配りができるかどうかだけです。あとは、慣れです。

段取りさえできれば、自分のスケジュールを最優先することができます。場所の選定も声をかけるメンバーも幹事の裁量に一任されるものです。会いたい人物、普段は会えない人物にも声をかけられます。考えようによっては、**幹事を引き受けたことで特権を手に行けるのです。**

心配はいりません。最初はぎこちなくても、配慮が足りなかったとしても、場数を踏めば誰でもできるようになります。恐れなくて、面倒くさがらないで、ぜひ積極的に引き受けてください。

同期をまとめているのはいつも〇〇さんだな、宴会になるといつも〇〇さんが仕切っているよな。そういう存在は、頼りがいがある印象を持たれます。幹事を引き受ける副産物として、**周囲からの信頼を勝ち得ること、上司から信用される存在になること、段取り力が上がる**ことが挙げられます。

若手はみな荒削りです。当面のところ、仕事で差はつきません。信用できる人物か、仕事を任せられる人物か、一緒に仕事をしたい人物か。結局のところ、差がつくポイントはそこです。

その時に大切なのは、自分のブランディングです。身だしなみはきちんとしているか。挨拶はしっかりできるか。言葉使いは丁寧か。伝えたいことをしっかり聞いてくれるか。他人に対して物事をはっきり言えるか。嘘をつかずに言ったことを必ずやってくれるか。それによって社内の評判が決まります。注意して見てください。ブランディングに必要なこれからの要素は、幹事を遂行するうえで必ず経験するものです。若手のブランディングに有利になり、信頼まで得ることができるならば、幹事を引き受けない手はないでしょう。

マイナスイメージはなかなか覆すことができない反面、幹事を引き受けることで形成されたプラスイメージも、よほどのことがない限り崩れません。上司から得た信頼性も、少々のことでは失われません。

出世する人は、数多くのチャンスをもらっています。ところが、チャンスというのは楽なことばかりではありません。苦しいこと、辛いこと、面倒くさいことも当然含まれてきます。**人が嫌がるようなことを積極的に引き受け、そのチャンスを死んでもやりきる人だけに、チャンスは再び訪れます。**

数多くのチャンスをもらうには、面倒なことに積極的に首を突っ込んでいくべきだと思います。幹事はその代表例かもしれません。幹事をやることは、誰のためでもなく自分のためなのです。

「次の飲み会の幹事は私がやります！」と申し出てくれた人がいます。しかしその人はやると言ったにもかかわらず、結局幹事を全うしませんでした。さて、あなただったらどう思いますか？

「威勢のいいことを言って、結局やらない人なんだな」

こういう人には大事な仕事任せたくないですね。

仕事のスキルを自分の力でブラッシュアップし続けるのは当然のことです。それに加えて、チャンスとフィードバックを数多くもらえるための努力を重ね、成長を加速させてください。**必要なのは、信頼を得ることです。**

幹事を引き受ける副産物は何ですか？

()